

(4) 横浜市立恩田小学校 平成26年度 学力向上アクションプラン

1 学校の状況と地域の実態

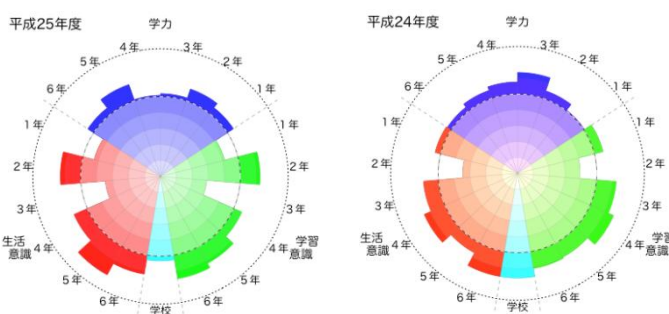
- (1) 重点研究会の授業研究を中心に教員の研究・研修は充実してきている。実際の授業に生かすことができるようにさらに研究研修を深めていく必要がある。
- (2) 経験の浅い教員が多く、基礎的な指導技術をより一層身に付ける必要がある。
- (3) 特別な教育的支援が必要な子どもへの対応が十分でない状況が見られる。学校での指導体制の構築が課題である。
- (4) 子どもたちの学力、意識が二極化している。学習環境が十分には整っていない家庭もある。
- (5) 家庭・地域との連携による教育活動を推進する努力をしているが、同じ意識で進められないことがある。

2 今後3年間の方向（中期学校経営方針）

学力向上に関する指導の目標・方針（平成27年度末の姿）

- 一人ひとりのニーズに対応した教育を実現し、基礎・基本の確実な定着を図るために、知識技能の習得と活用に向けた授業の改善や朝学習の時間の活用を行っています。
- 教科等の授業研究を通して、個々の教職員の授業力・指導力向上を図り、魅力ある分かる授業を展開しています。

3 横浜市学力学習状況調査等からの平成25年度の実態把握



(1) 学力の概要と要因の分析

全体的には、横浜市の平均的よりも高い学力である。しかし、学習意識、生活意識がやや低い学年があり、学年差がある。

家庭の勉強時間や読書量にも差があることから家庭の学習環境も二極化している。個に応じた指導と体験的な学習を意図的に展開していく必要がある。また、思考力、読む、書くに比べて、技能や話す聞く力はもう一つである。基本技能を定着させ、コミュニケーション能力を高めるために、自分の考えを表現し学び合う授業の工夫が、求められている。

(2) 教科学習の状況

- 国語科：読む力・書く力はあるが、話す聞く力に課題がある。
- 算数科：全般的に市の平均的を上回っている学年が多いが、個人差、学年差が大きい。思考力が高めの傾向だが、技能はそれに比べて低い。
- 社会科：思考・表現や技能の観点に比べ、知識・理解に課題。
- 理科：思考に比べて、技能に課題。

(3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

4年の意識調査が低い傾向が改善されていない。他学年は概ね成果があった学年が多い。また習得・活用に関しては、習得の方がよい学年、活用の方がよい学年と学年間で傾向が違うとともに、経年変化も違っている。今後も組織的に教育活動を展開していくことが必要であると考えられる。

4 平成26年度 目標と具体的方策

平成26年度 目標

考える力を高め、自分の思いや考えを豊かに表現する子どもの育成

(1) 学校組織としての共通の取組

○ 言語活動の充実

読み、考え、書く力を生かした授業を通して、思考力・表現力・判断力のさらなる育成をする。また、知識技能の習得とコミュニケーション能力（話す聞く力）の向上に向けた授業の改善や朝学習の時間の活用を充実させていく。

○ 特別支援教育の充実

児童の実態を把握し、共有化しながら個別に応じた指導の展開を図る。関係機関との連携を図りながら、よりよい児童の支援を探る。

○ 研修・研究会の時間の確保と内容の充実

授業力・指導力を高めるために、意図的計画的に校内研修を実施する。また、全教員が年1回以上「研究授業」を行い、重点研究会を充実させ、研究を深める。

(2) 学年・教科等としての取組

1 学年

- 国語科等で、説明する文章、紹介する文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに、できる限り対話をする場面を位置付ける。
- 分からないこと、詳しく知りたいことを尋ねたり、気持ちを表情や態度、言葉で表したりしながら対話する。

2 学年

- 生活科等で、体験を通して自分の生活について考えられるよう報告する文章や説明する文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに話し合いをする場面を位置付ける。
- 大事だと思った点を確かめたり、関連した情報を提供したりしながら話し合う。

3 学年

- 社会科等で見学・調査したことを説明する文章、記録する文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに、話し合いをする場面を位置付ける。
- 理由や根拠を尋ねたり、まとめたり補足したりしながら話し合う。
- 列挙したり、順序を付けたたりして考える学習を計画的に行う。

4 学年

- 算数・理科等で説明する文章、記録、報告する文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに、話し合いをする場面を位置付ける。
- 反対の意見をだしたり、相手の考えを取り入れ自分の考えを述べたりしながら話し合う。
- 順序を付けたたり関連付けたたりして考える学習を計画的に行う。

5 学年

- 総合的な学習等で説明する文章、意見を述べる文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに、話し合いをする場面を位置付ける。
- 相手の話を一般化したり、経験を加えて拡張したりしながら話し合う。
- 関連付けたたり、分類・整理したりして考える学習と振り返りを行う。

6 学年

- 今までに身に付けた読む力、書く力、考える力を生かし、聞く・話す力を伸ばす。
- 集中力、緊張感の中で落ち着いて学習することを大切にし、やわらかに楽しく分かる授業を展開する。
- 常に全員を意識し大切にして、説明し合ったり、伝え合ったりする双方向の授業を作り、振り返りながら向上するようにする。

5 組・6 組

- 個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づき、話し言葉、表情、仕草、書き言葉等、発達段階に応じた適切なコミュニケーション手段を積極的に活用する場面を設けるようにする。
- 日常生活の基本的な習慣を身に付け、集団生活に必要な態度や技能を養う。
- 個々の児童が自立を目指し、障がいによる学習上または生活上の困難を主体的に改善、克服するために必要な知識・技能・態度及び習慣を養う。